

1 人間力育成 (1) 生徒指導体制の確立 (2) 人権・道徳・特別支援教育の充実 (3) 教育環境の整備

〈令和元年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由	
(1)	生指	①「いつでもどこでも」の意識で生徒への声かけを行う。	生徒の情報を部内で共有し、意志統一して指導にあたるよう心掛けた。	3	3.2	概ね期待通り
		②問題行動を起こさせない常時指導の徹底。問題行動発生10件以内、特別指導者0名、退学者0名を目指す。	別室指導を含む特別指導は10名で、例年よりも問題行動は少なかった。	3		
		③校外において自転車盗難0を目指す。校内での自転車施錠点検を不定期に実施し、施錠をする習慣を徹底して身に付けさせる。	施錠点検を実施し、行内の施錠率は良いが、駅での盗難は数件あった。	3		
		④服頭指導警告書(ブルーカード)を活用した気づきの指導を行う。服装頭髪等違反者0名を目指す。	例年並みの違反数であったが、極端な違反をする生徒はいなかった。	3		
	進路	①生徒指導部、学年団と連携し「常時指導」徹底に努める。	できている	3	先生と生徒のコミュニケーションができてい るでしょう。素直に 生徒指導に応じてい ると感じます。	
		②学校行事の中で、基本力の育成に務める。	教示の中での取組は、やや不足	2		
	保体	①健康診断・事後措置の徹底を図る。	適切に実施することができた。	3		
		②健康相談の実施(水泳前・体育大会前・修学旅行・宿泊研修前・長距離走)	適切に実施済み。大きな事故等もなく、行事を終えることができた。	3		
		③朝の健康観察(毎朝)を綿密に行い、生徒の健康状態の把握に努める。	どのクラスも実施できている。ただ単に健康観察の提出だけでなく、手渡しを実施することで、保健体育委員から直接、クラスの状況を聞くことができています。 保健室来室者数 けが…256名 病気…299名 計555名(2月27日現在) インフルエンザ罹患者も少なかった。	3		
	環美	①清掃の始まりと終わりの挨拶を行う。	挨拶を行うことで指示が行き届き、極端に遅れて行く生徒も少なくなったと思う。今後も清掃は授業同様であることを訴えていきたい。	3		
		②清掃時の移動時間を5分以内とする。	始まりと終わりの挨拶が定着しつつあり、引き続き取り組む。 清掃の集合・生徒の動きは、監督職員の意識によることが多い。我々職員が清掃活動の意識を高める必要がある。			
		③すべてのゴミ持ち帰りの指導をする。	持ち帰りする意識はあるが、管理ができていないため多少のゴミが出る。自分のゴミはバッグの中に入れて持ち帰るよう指導する。			
		④積極的な校内ゴミ拾いを行い、ゴミが落ちていない状態にする。	校内は良いが、校外のポイ捨てが目立つので、ゴミの管理・清掃活動を行う。			
		⑤菓子類の持ち込み禁止の指導をする。(ガムの吐き捨て防止)	飴やガムの包み紙・菓子パン袋・コンビニのレジ袋が目立つので、不要なものの持ち込み禁止を呼びかける。			
		⑥美化委員による学期一回の校外ゴミ拾いを行う。	毎期末考査最終日に美化委員会による校外の清掃活動を行う。			
	渉図	①公共の場である認識をさせる。ルールやマナーを提示し、生徒が自ら守れるように育てる。	年度当初に生徒に対し指導を行い、昼休み等に渉外図書部員および有志の先生方の協力を得ることがあったが、その後は適切な使用ができています。	2		
		②図書館への入場するとき、その都度気がついた職員が指導することにより履き物をそろえさせる。最終的には、生徒が自らそろえられるように育てていく。	チェックしているが、概ね正しくできている	2		

(1)	教相	①教育相談案内(保護者向け)の実施	計画通り実施、対応できた。	3	1年生はまだこうこうせとしての実感が不慣れ、徐々に指導し習慣化を 各部の先生がTRの指導はよくできている。“ものづくり”は今後更に必要性があるようです。
		②いじめ・悩みアンケート(年3回)の実施	計画通り実施、対応できた。	3	
		③いじめ不登校対策委員会(各学期1回)	計画通り実施、対応できた。	3	
		④担任と連携した家庭訪問や面談の実施	担任との連携、家庭訪問の実施は積極的に実施したものの、進路変更等の生徒異動があった	3	
		⑤専門機関との連携	ひまわり支援学校等と連携した取組を行った。	3	
	1年	①集会時のきまりをしっかりと遵守させ、型を身に付けさせる。	集会時の態度もよいと考える。しっかりとした言葉を発するようにさせていきたい。	3	
		②週末の終礼で副委員長主導のもと、生徒手帳へ記入時間を設け、1週間後の見直しを持って行動させる。	定期的に生徒手帳を活用する機会を設けられなかった。生徒主体としての取組として行動ができていない。3学期には、副委員長を動かしていきたい。	2	
		②部活動の意義を伝え、加入率85%以上の入部を勧める。	加入率は最高時85.6%で、2学期末で82.2%である。(M16/30・E30/32・A37/39)	3	
	2年	① インターンシップや修学旅行など校外の活動においても、5分前行動を徹底させる。また、普段の授業等も予鈴の時に委員長による声かけを実施しベル着を徹底させる。	朝礼でぎりぎりになる生徒が出てきている。時間を守る意識をつけさせ、授業のベル着から徹底させたい。	2	
		① 先の見直しを持って行動させるため、副委員長の主導の下、生徒手帳へ記入させる。(活用率をもっとあげる。)	全体では記入することはできていても、それを活用することができていない生徒が多い。(未活用34%)		
		③正しく伝える力を養うために、日直日誌指導により、SHRで1分間スピーチをさせる。	クラスごとに工夫をして取り組むことができた。しっかり声が出て、内容もよくなってきている。今後も継続させたい。		
	3年	①日々の服装容儀指導を行う。	服頭検査での違反は少なくなったが、就職試験が終わった頃から、気の緩みが見られる。	2	
		②3学年職員で連携して、校内外でのあいさつ・マナー指導をおこなう。	日常的にあいさつは良くできている。しかし、校外でマナーを守れないところがあるように思う。	2	
		③1分間スピーチの毎日実施と、日直日誌指導を充実させる。	各クラスで、それぞれ取りくんだ。就職先でのスピーチに向けて良い練習になると思う。	3	
	機械	①授業はじめに安全面、服装面、意識面の指導を行う	実習開始時には毎回安全面等には指導をした。その結果、病院に行くような怪我はなかったが、1件のみ少し深い怪我の報告があった。今後も徹底した指導を行う必要がある。	2	
	電気	①関係先生との連携を密にし、生徒の変化の早期発見に努め、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	生徒欠席日数は、延べ45日であった。特別指導数は2件であった。	3	
	建築	①提出物(実習レポート、製図、作品)100%提出の徹底。	生徒の自己評価1は、1年39%、2年44%、3年59%と学年が上がるにつれ取組が良くなっている。保護者評価1は、学校平均39%、学科平均38%。提出物は、1年次に学科で提出の躰を厳しく行っており、その結果が反映されていると考える。	3	
		②実習時の時間厳守と、挨拶時の礼法指導の徹底を図る。	生徒の教員評価3は、学校平均70%に対し学科平均66%。生徒自己評価3は、学校平均59%に対し学科平均60%という結果で生徒の取組が低い結果。保護者評価3は、学校平均57%に対して学科平均61%。意外にも3年生保護者が73%と高評価であり、日頃の指導を評価して頂いている結果と言える。	3	
		③実習レポートの充実(丁寧かつ考察のあるレポートづくり)	昨年度からの課題であったが十分とは言えない。継続して丁寧な文字で考察のあるレポートづくりに努めていきたい。	2	

(2)	教務	①職員研修を企画し、関係部署との連携を図る。	教務部としてはあまり連携がとれなかった。	1	3	概ね期待通り ほぼ期待通りと評価できる
	生指	①SNSを利用する際の法令・規則を学ばせることで、個人情報や人権に係わるトラブルに巻き込まれないように指導を行う。	大きな問題は起きていない。但し、表に出にくく把握しきれないのが現状。	3		
		②講演会の実施や関係機関との連携	年度初めに1年生と保護者に対して業者による講演会を実施した。	3		
		③生徒自ら活動内容の企画・準備を行わせることで、生徒の意欲向上を図	例年通り充実した交流ができた。	3		
	進路	①教育相談部やハローワークとの連携を推進する。	問題が起これば対処できるようにしている	3		
	保体	①教育相談部と連携を図り、疾病や発達障がい等の情報を把握し、適切な支援を行う。	部会等だけでなく、日頃から連携を図ることで、迅速に対応できている。	3		
		②中学校・支援学校・専門機関等との連携を図り、生徒理解・適切な支援に	教育相談部と連携を図り、適切に対応できた。	3		
		③命を大切に教育を推進する。	人権学習の中で行い、全職員で対応することができた。	3		
	環美	①自分の命は自分で守ることを再認識させる。	日常的な防災教育(シラバス)と抜き打ちの訓練を継続的に行う。	3		
		②共に助け合う気持ち(共助)を防災訓練に取り入れる。	訓練に共助の要素(車椅子)を取り入れる予定で準備まではしたが、雨天のため実施できなかった。			
		③本校所有の救助・共助用車椅子を数台確保する。	職員同士の救助訓練として、本校所有の車椅子を使用し、共助訓練を行う予定であったが、雨天のため実施できなかった。			
	渉図	①資料や書籍を積極的にそろえ、命の教育週間(7月第1週)世界人権デー(12.10)や国際障害者デー(12.3)などに合わせて展示コーナーを設ける。	どうしても時期が集中するものがあったが、展示を行うことができた。	2		
	教相	①人権教育の年3回実施	計画通り実施、対応できた。	3		
		②「人権教育通信」を発行する。	計画通り実施、対応できた。	2		
		③授業のアクセシブルデザイン化を教務部と連携して行う。	計画通り実施し、検証できた。	3		
		④特別支援校内体制の一次支援としてのグッドジョブウィークを2回実施す	実施はできたが、内容を検討する必要がある。	2		
		⑤通級に関する校内委員会(特別支援推進委員会)を実施し、来年度の対象生徒の絞り込みを行う。	計画通り実施し、対応できる見通しであるが、校内委員会の整備が必要である。	2		
	1年	①夏休みまでに家庭訪問を行い、家庭状況を把握して、家族と連携した指導を行なう。	保護者と連携を取り、良い人間関係は構築できた。	4		
		②コーディネーターの授業参観や家庭訪問・面談をもとに、通級指導へ向けた説明や準備など生徒一人一人に応じた指導を行う	通級については、保護者・本人の同意を得る必要があるため、慎重に準備を進めている。	3		
	2年	①一人一人に応じた指導を行うために、教育相談部と連携をはかり、学期1回の拡大学年会を行う。学年会の記録を副担にも共有する。	毎週の水曜日に、教育相談部の先生にも来ていただいて、生徒の情報交換を時間を十分にとって行っている。拡大学年会は実施できている。学年会の記録の回覧を行った。	3		
3年	①丁寧な言葉遣いを注意させる。	面接指導時に適切な言葉を使うように指導したが、言葉使いの改善までにはしていない。	2			
	②生徒の言動や表情に常にアンテナを張り、心配な生徒は、担任、教育相談につなぐ。	担任団の日頃の指導や、各部、学科からのフォローがあり、生徒の信頼は上がっている。	3			
機械	①教育相談部と協力しながら、いじめ0を目指す	些細な事案でも、教育相談部との相談・話し合いがもたれた。	3			
建築	①HRは正副担任全員で対応し、生徒への声掛けや職員間での情報共有を行う。	生徒の教員評価13は、学校平均、学科平均共に63%。保護者評価13は、学校平均58%、学科平均62%と4%高い。保護者は、学年が上がるにつれ評価が高い。担任団指導を含めた職員の協力体制が評価されている結果と考える。	3			

(3)	生指	①クラブ活動・教育振興基金の有効活用を提案する。	・部顧問会で協議して提案している。	2	2.8	概ね期待通り
		②部活動生集会と未加入生集会を定期的実施する。	・学期末毎に実施している。1年生の加入率をもっと上げたかった。	3		
	進路	①進路指導室及び進路資料室の整備に努める。	前年より生徒も利用している	3		
		②日向工業進路学習の活用し充実に努める。	まだまだ活用の余地はある	2		
	保体	①環境衛生検査を適切に実施し改善を図る。	学校薬剤師と連携を図り適切に実施できた。	3		
		②定期的な安全点検を実施する。	今後も継続して取り組んでいく。	2		
		③毎週水曜日をリフレッシュデイとする。	今後も継続して取り組んでいく。	2		
	環美	①事務との連携を密にし、設備・用具の整備充実を図る。	消耗品、清掃用具の在庫を確認し、必要に応じて準備した。	3		
		②学期毎に美化委員による清掃用具の点検を行う。	清掃場所ごとにアンケートを取り、清掃しやすい環境を整えることができた。			
		③花壇を中心に花と緑に囲まれた潤いのある学習環境の整備に努める。	年2回の植え替えを実施した。			
		④徹底したゴミの分別に努める。	ゴミの量が例年少なくなっている。今後も持ち帰り指導を徹底したい。			
		⑤全生徒・職員プラゴミの持ち帰りをを行う。	校外でのマナーが悪いので、モラルを身につけさせる必要がある。			
	渉図	①毎月、図書館に多読の生徒を掲示し、読書の啓発を行うと共に、年間多読賞の表彰を行い、表彰されることで自信を持てるようにする。	予定通り実施された。	2		
	1年	①教室前方には、掲示物をせず、授業に集中しやすい環境を作る。	教室前方にはものを掲示せずに、後方に掲示させていて、集中力が散漫になることはなかった。	4		
	2年	①学びの場としての教室の環境を整えるために、アクセシブルデザインを意識した教室内の整備を徹底する。	黒板の周りはきれいに整理されているが、後ろの棚が荷物が十分には入らないので、うまく整理できていない生徒がいる。教室の環境も意識して取り組みたい。	3		
	3年	①日々の清掃の徹底をうながす。	与えられた仕事は概ねできるが、自分から仕事を見つけて清掃を行う姿勢を身に付けさせたい。	2		
		②廊下の靴箱の上やロッカーの中身の整頓を各クラスで注意させる。	概ね良好だが、注意を怠るとできない場合があった。	2		
	機械	①5Sを徹底することにより、安全・安心な作業を図るとともに、2S(様々な習慣づけ、礼儀やけじめ)を加えることにより工業人としての人材を育成する	ほぼ整理整頓はできていると思われるが、工具等の細かい管理がまだなされていない状況である。	2		
建築	①各実習室等、職員管理者を定め授業ごとに点検する。	各実習室の整理整頓・備品管理等は、管理者を定め実施しており概ね良好である。しかし、各実習等の未施錠が数件あり、使用した部屋の最終確認を徹底する。	2			
建築	①用具・材料の整理整頓に職員・生徒全員で取り組む。	生徒の教員評価11は、学校平均56%、学科平均55%。保護者評価11は、学校平均52%、学科平均56%と4%高い。生徒の自己評価11は、学校平均41%、学科平均51%と10%高い。将来技術系の職種に就くことを念頭に日頃徹底した指導を行っている。	3			

2 学力養成・キャリア教育

(1) 教育課程の工夫・改善

(2) 授業改善と学力養成

(3) キャリア教育の充実

〈令和元年度〉

目標	努力事項（評価指標）	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	教務	①教科・学科と連携し、本校生徒の実態に即した教育課程の編成に努める。	新教育課程に向けて、教育課程委員会を4回開いた。	3	3.2 期待通り
	進路	①課外など普通教科と協力して取り組みを充実する。	生徒の個々に合わせことは難しい	2	
		②業者テストなどを利用し、学力を確認し資料にする。	業者テストの活用はできている。	3	
		③生徒の就職希望者内定を年内100%達成する。	達成できたと思っている。	3	
		④県内就職率を60%以上にする。	予想以上に比率が高かった	4	
		⑤「高卒就職専門員」と連携した地元企業への就職開拓の実施。	概ねできている	3	
		⑥各講座の実施。	生徒に合った講座の実施ができています	2	
	環美	①防災教育は特別なことではなく、日常的に防災教育を行う。 (シラバスに防災教育に関する内容を明記する。)	各教科のシラバスに防災に関する内容を記載してもらい、日常的な防災教育を各教科毎に行った。 防災バッグ(非常時持ち出し袋)を今年度中に各学科に配備し、来年度、持ち出し訓練を取り入れる。	3	
		②生徒・職員に対する予告なしの「緊急地震速報を活用した防災避難訓練」を行う。	地震・津波を想定した抜き打ちの訓練を11月15日金曜日に実施した。		
	1年	①漢字検定 1月29日試験へ向け6月より実施。年間5回、漢検週間を設定し、担任団で合格に向けた取り組みを実施する。	結果はまだなので判断できないが、クラス間の温度差もなくしっかりと取り組むことが出来た。	3	
	2年	①連携ミスをなくすことで生徒が板挟みにならないようにするために、資格課外と部活動の報告連絡相談を確実に実施する。	それぞれの学科で連携できている。	3	
	3年	①資格取得や面接の練習、学力の向上などにおいて、各学科、教科と連携	学科や教科の協力があり、充実した取り組みができた。	3	
	機械	①職員一丸となり指導体制を整えたとともに、合格率60%以上を目指す	国家資格レベルでは、危険物丙種が66.7%、乙4が57.1%、技能検定旋盤・フライス・保全是100%、JISアークが66.6%の合格率で生徒は非常によく頑張った。	3	
	電気	①学科の目標を明示し、目標達成に向けて、生徒・職員が全力で取り組む。	第2種電気工事士合格者は、2年生33名であった。 職員全体の組織的な取り組みが課題である。	3	
	建築	①各学年で必ず取得する資格を定め、授業を中心とした指導体制を確立。	生徒の教員評価9は、学校平均、学科平均共に74%。保護者評価9は、学校平均63%に対して68%と3%高い。保護者は、学年が上がるにつれ評価が高い。保護者も学年が上がるにつれ理解が高まっている結果と考える。	3	
建築	①資格取得の指導体制を構築し効率化を図り、各担当職員で合格率を決め職員・生徒全員が全力で取り組む。	生徒の教員評価10は、学校平均73%に対し、学科平均共に67%と7%低い。保護者評価10は、学校平均、学科平均共に61%。授業・課外を通じて資格取得へ力を入れているが、結果が低い資格もありその結びつきが評価結果と出ていると考えられる。また、資格取得10の生徒の自己評価は、学校平均43%に対して42%と同程度であるが教員の評価より格段に低く生徒の取組が課題である。これは、自宅学習の自己評価とも関があることが考えられる。	2		
建築	①新カリキュラム完成年度、年度末に反省を行い次年度につなげる。	カリキュラム完成年度を迎え、再度、年度末に各職員が1年間の授業反省を出し審議する。	3		

(2)	教務	①職員の授業改善の意識を高める。	授業改善の研修は行っていない。	1	2.2 教員の意識改革が必要と感ずます。 自己評価での「1」が多すぎる特に授業改善を目標に挙げて何もしていない状態はいかがなものか 数学は技術系にとっては必須。国語は想像力を養う為に必須。図書に興味を持たせる必要性の指導もあると良いと思います。
		②公開授業の取組を見直し、より有効な取組の確立を目指す。	ほとんどの先生に公開授業をしていただいた。	3	
		③ICTの活用を促進し、職員の意識・技術を高める。	利用率は78%であった。	3	
	生指	①始業前の挨拶を徹底することで、授業と休憩時間のメリハリをつける。	授業での礼法については全体的に徹底できていると思う。	3	
		進路	①生徒の個性・能力等を十分に理解し、保護者や担任との連携を密にして、きめ細かな進路指導を推進する。	できていると感じる	
	②個人及び三者面談の充実と、各学科と連携した面接指導の実施。		概ねできている	3	
	③生徒及び家庭への進路情報の伝達と担任との連携を図る。		家庭へ情報が届かない所もある	2	
	④満足度調査で、本校を選んだ満足度を80%以上を維持する。		今回クラスによって80%を割り込んだ	2	
	1年	①ブラックボードを活用した広報や機会あるごとに生徒と本について会話をし、現状にあった本の購入及び紹介を行う等に取り組み、貸し出し数の10%増を目指す。	4月から11月までで比較すると2018年が2095冊に対し、今年が1016冊と大きく割り込んでいる。特に司書担当の事務の方がいない夏休みの貸し出しが落ち込んだ	1	
			①数学科と連携し、つまずきの発見、学び直しを実施する。	数学の学び直し確認テストでは6月実施の平均48.1点が9月には58.1点と上昇した。国語科を中心に、文章読解の学び直しも行った。	
	2年	②基礎力診断テストを通して、自己肯定感を育むため、GTZのDゾーンの生徒数を減少させる。	課題テストの結果をみると、上昇している生徒も多いが、D3ゾーンは増加している。	2	
			①自己肯定感を育むため、進路模試を通して自学自習力を養成し、GTZのDゾーンの数を15%減少をさせる。	各教科で取り組んでいるが、学年としては特に取り組んでいない。	
	3年	①朝自習・朝読書を通して、基礎的な知識や教養を身に付ける。	20分間を集中して行うことができた。基礎的な知識や教養を定着させる工夫が必要。	3	
	機械	①座学と実習を関連づけて、生徒が自ら問題を見つけ解決する能力を育てる	座学と実習を関連づけての授業が思うようにできなかった。まだまだ教材研究が必要である。	1	
	電気	①電気に関する基礎的知識を系統的に理解させ、さらにこれを応用できる能力を養う。	欠点保有者は2名、1科目ずつであった。	3	
		②製作実習や課題研究、技術部等において積極的なものづくりに取り組ませることで、自ら問題を解決する能力を育成する。	課題研究については各班積極さが見られ順調に動いている。技術部は、マイコンカーの大会参加等活動を活発に行い、全国大会に出場した。	3	
	建築	①座学4科目においてTTでの授業を実施し、内容・指導体制の充実。	生徒の教員評価1は、学校平均53%、学科平均51%と決して高い数字ではない。今後もより一層分かる授業を目指してTTによる授業を充実させていきたい。	3	
		②座学・製図・実習全ての授業の目的・評価を明確化する。	年度初めの授業開始に、レポート・製図作品での評価説明を実施。未提出者には個別指導している。座学については各教科担任に任せとなって統一出来ていない。	2	
		③専門の授業において、他科目との連携(座学と実習)(座学と製図)を実施	2年生では構造で鉄筋コンクリートについて学習を行っている。実習でコンクリートと鉄筋の強さについて実際に強度試験を行っているので実習の様子を見ながらタイミング良く、実習と座学で連携を行い深い学びができている。	3	
		④学科内共通のアクティブラーニングの型の構築。科内授業公開の実施。	単元や科目の違いでALの型を構築することは難しい。しかし、各担当積極的にALに取り組み、授業公開も実施。	3	
⑤3年次に一人一作品の課題を課し、学科内卒業コンペを行う。		今年度は、3年生全員による審査を1月23(木)に実施。今後1・2年生による審査及び勉強を実施し、今後に繋げる。	3		

(3)	生指	①一人一役で各種委員会活動の充実を図り、責任感を身につけさせる。	年度末に2回目の委員会を開いた。	3	3.2	期待通り
		②1人年1回以上のボランティアに参加させることで、自己存在感を意識させる。	色々なボランティアへ多くの生徒が参加した。	3		
	進路	①日向地区キャリア教育支援センターとの連携。	連携はできている	3		
		②工業部、学年会と連携したインターンシップの実施と充実。	全て連携はできていない	2		
	保体	①救急法講習会・薬物乱用防止教室等の健康講話を実施する。	・関係機関と連携を図り適切に実施できた。	3		
	環美	①災害ボランティア・地域清掃活動を推進する。	「高校生安全・防災研修」に代表生徒をに参加させ、参観日に保護者・職員に向けて報告をした。	3		
		②日常の学習が自他の命を守ることにつながることを認識させる。	各教科のシラバスによって、学習することが自他の命を守ることにつながることを今後も継続して認識させる必要がある。			
	渉図	①進路コーナーを更に充実させるため、進路指導部や学年との連携を密にし、随時進路資料の収集に努める。	新聞・資格指導の教材等を中心に、資料を提供できた。	2		
	教相	①外部機関と連携し特性を踏まえた進路指導の支援	生徒の進路先と連携し、必要な引継ぎを行った。	3		
	1年	①事前事後指導を充実させ、積極的に企業・現場見学会等に参加し、主体的に職業観・勤労観を構築できるようにする。	事前事後指導を充実させることで、さらに次の学年に繋がると考える。	3		
	2年	①年2回の外部講師によるマナー指導を含めたインターンシップや事前・事後指導を行う県北企業説明会を通して、しっかりとした職業観を持たせることで、2月には進路希望を明確にさせる。	総合的な学習の時間を使って、進路について考えさせる取組を行っている。目標がしっかり持てるように指導したい。	3		
	3年	①企業・学校調査、三者面談を行い自己決定力を育成する。	進路に関する情報は生徒に伝わっていると思うが、それを自分で理解し判断できる力を養う必要がある。	3		
	機械	①3年担任および進路指導部と連携を取りながら、ミスマッチのない進路実現を目指す	各先生方のおかげで、年内には就職・進学ともに100%にすることができた。ミスマッチをしていないかどうかは不明である。	2		
		②1, 2年生においても、進路意識を持たせるためLHRや授業で話をする	1年では企業見学、教えて先輩、2年ではインターンシップ、総学での取り組みで進路意識を植え付けている。	2		
		③学校および地域の役に立つような「ものづくり」に取り組む	実習工場内の整理棚、側溝蓋の製作、駅前のイルミネーションなどのものづくりに取り組んでいる。	3		
		④デュアルシステムを継続して行い、少しでも地元就職の増加に努めたい	受入企業に就職しない生徒の面倒を見てもらっているため、来年度からは見直しをしなくてはならない。	2		
	電気	①進路指導や相談等を徹底することで、進路選択に対する意識付けと、目標実現に向けての取り組みを推進する。	1～2年生に対しては毎日のように進路情報を与え、各自の進路実現に対して意識を持たせるようにした。3年生については担任による個人面談等を行い、全員が進路決定した。	3		
		②資格・検定の全員合格を目指す。さらに上位の資格取得を目指す意識を育成する。	1年生は、まだ意識が低い生徒が多数いる。もっと時間をかけて意識の向上を図る必要がある。2, 3年生は意識の向上が見られた。	3		
	建築	①3年生課題研究「インターンシップ班」を実施し、より高い職業観・勤労観と専門的知識を掘り発表させる。	3年生課題研究インターンシップ班5名が前期・後期に参加し、技術的なものは勿論のこと人間的成長を確認することができた。また、調査研究班6名が今年も建築甲子園全国大会出場、工業技術発表会優秀賞、日向市内において発表体験を通じて、新聞等でも紹介され自己肯定感を高めることができた。	3		
		②現場見学会・インターンシップを通じて、自己の職業適性や将来設計について考えさせ1・2年次にそれぞれ第3希望まで決める。	生徒の教員評価7は、学校平均72%に対して学科平均70%。保護者評価7は、学校平均64%に対して65%と学年が上がるにつれて高評価で特に3年生は78%とこれまでの一連の体験活動を多く取り入れたキャリア教育・進路指導が評価されていると考える。現在2年生が二者面談中であり、年度末には三者面談を実施し、ミスマッチ防止に繋げる。	3		

3 信頼される学校づくり (1) 広報活動の充実と学校公開 (2) 危機管理の推進と適切な対応 (3) 防災教育の推進

(令和元年度)

目標	努力事項 (評価指標)	学校自己評価コメント	自己評定	学校関係者評価	理由
(1)	教務	①関係部署と連携して、かわら版の工夫・改善を図る。	かわら版は5回発行した。 HPを工夫・改善し閲覧数が増えた。	3	3 概ね期待通り ほぼ期待通りと評価できる 広報活動は必須です。 HPで確認する生徒さんや保護者が増えてきましたね
		②中学校での高校説明会の工夫・改善を図る。	説明する職員の人数を増やし、依頼があった中学校全てに対応した。	3	
	生指	①登下校時の挨拶・交通マナーの向上を図ることで、本校生のイメージを変える。地域からのクレーム0を目指す。	地域からの苦情は少なかったが、0を目指したい。	3	
		②学校HP・安心メールを活用し、生徒会の行事や各部活動の活動を紹介する。	HPの活用など、今後も検討していきたい。	2	
	進路	①校内・教室掲示板の活用など進路情報の積極的提供に努める。	掲示など情報提供は行っている	3	
		②全生徒と保護者に変化していく情報を伝え、進路意識の喚起を図る。	うまく伝わっているか心配	2	
		③進路状況をホームページで発信する。	できていない	1	
	保体	①保健だよりの発行や健康管理に関する情報を発信することで、生徒一人ひとりの基本的な生活習慣の確立に努める。	毎月、情報発信はできているが、生徒に意識を確立させるまでには至っていないので、今後も継続して取り組んでいく。	3	
	環美	①防災訓練を報道機関へ発信する。	本校の防災教育を広く発信するため、報道機関に投げかけ、数社の取材を受けた。	3	
	渉図	①PTA総会への出席率75%以上を目指す。また、PTAの各専門部会の活性化を図る。(PTA新聞の写真を充実させるなど)	PTA総会の出席率は約73.1%と昨年の70.0%より若干向上したが、目標の75%には達しなかった。なお、学校アンケート保護者14の変化傾向と似ており、保護者が「日向工業高校に入学させてよかった」と感じているかどうか鍵になると考えられる	1	
		②PTAの組織を学校に規模に応じたものにすると共に、生徒に直接関係しない活動の内容精選を継続する。	PTAミニバレーを中止し、その分をPTAバザーに移っていたが、人手が足りた運営が行われた。はまぐり祭のアンケートでも、特に問題が無いとの評価であった。夏の奉仕活動については再検討の余地がある。	2	
	教相	①保護者向けに相談室便りの発行(年2回)	計画通り実施、対応できた。	3	
	1年	①学年通信を副担任が輪番で每学期2回以上発行し学校や生徒の状況を発信する。	学年通信は学期1度発行。年度当初にもっとしっかりとした計画を立てるべきであった。	2	
	2年	①学年通信を副担任、学年所属の職員が輪番で2回ずつ発行し、学校や生徒の状況を発信する。	副担任が9月から輪番で発行している。これからも続けていきたい。	3	
	3年	①学年通信の定期的な発行(学期2回の発行予定)	現在5回発行。内容の充実と学校のホームページへの掲載など活用の方法を考えたい。	3	
		②卒業アルバムをよりよいものにする。	撮影は学科や部活、諸先生方の協力で無事に終えることができた。段取りよく準備を進めていれば良かったと思う。	3	
建築	①体験入学にて建築科参加者60名を確保するため、各中学校へPR活動を	本年度体験入学は、当初64名の希望があり、当日は62名が体験を行った。今年は、お土産で筆箱製作体験を実施。大変好評でネット上にアップしている保護者もおられた。中学生のアンケートでは、大変興味を持ったが76%、入学したいが61%と概ね良い評価で、感想も良い内容であった。	3		

(2)	教務	①文書・データ管理の徹底を図り、職員の意識を高める	定期テスト前にプリントを配付し、注意喚起をした。	3	3.2	期待通り
	生指	①気づきシートを積極的に活用することで、生徒理解やいじめ防止に努める	シート活用は少ないが、職員間で連絡を密に取って迅速に対応できた。	3		
		②日向・延岡警察署生活安全課への定期訪問を実施し、地域における本校生の実態把握に努める。	定期的に情報を得ている。連携は十分に取れていると思う。	3		
	進路	①企業・大学等との情報のやり取りに努める。	概ねできている	3		
		②トラブルを防止するため、関係機関との連携を強化する。	改善の余地はある	2		
	保体	①緊急時の連絡体制を整備し外部機関との連携を図る。	適切に実施できた。	3		
		②AED等の点検を行う。	適切に実施できた。	3		
	環美	①学校防災の在り方、防災訓練、防災に関する情報交換を行う。 (必要に応じて学校防災連絡協議会を実施する。)	日向市防災推進課、消防本部、中村消防設備の協力を得て、学校防災について密に連携を取ることができた。	3		
		②非常持ち出し品を準備する。				
		③各職員室・準備室に非常持ち出し袋を常備する。	まずは、学科職員室への準備を進めている。			
	渉図	①図書選定委員会を中心に予算の執行状態の確認や、予算の執行を行う。	予定通り執行された。	2		
	1年	①日向工業高校メールを有効に活用するために、加入率を100%にする。	加入率100で目標達成。	3		
	2年	①日向工業高校メールを適切に活用するために、加入率を100%する。	加入していない保護者が1名いる。	2		
	3年	①日向工業高校メールの加入率100%を目指す・管理マニュアルの周知	未加入の保護者へは案内を行った。	2		
	機械	①挨拶、提出物、準備・片付けなどを徹底することにより、安全に作業できる環境を整える	提出物が悪い生徒が一部いるようである。継続して指導をしていきたい。	2		
	電気	①実習時の安全教育を徹底する。	実習服の着方、工具の使い方等を徹底した。 けがをした生徒はいなかった	3		
	建築	①安全教育を毎時間、集合・整列時に実施する。	生徒の教員評価4は、学校平均71%、学科平均67%。生徒の自己評価4は、学校平均69%、学科平均68%。学年では、1年生64%、2年生68%、3年生72%。保護者評価4は、学校平均・学科平均共に56%。安全第一の精神を毎回に実習で指導しており、現場見学会やインターシップを経験することもあり、学年が上がるにつれ安全の意識が向上している。	3		
②実習時の挨拶は「御安全に」に統一する。		挨拶は毎時間ごとに実施し、集合・整列時に服装の点検、「御安全に！」の声かけで安全意識を高めることができた。通年で行うので生徒にも徹底できている。	3			

(3)	生指	①各部で避難方法の確認と訓練を年1回以上行う。特に校外で活動を行う機会が多い部については避難場所を確認しておく。	冬期休業中に各部毎に避難訓練を実施した。	3	3	期待通り
	進路	①学校・本人・受験先・保護者との連絡体制の緻密な確認。	概ねできている	3		
	保健	①保健だより等を通じて、災害時の備えや感染症予防等の健康管理に関する情報提供を行う。	情報発信は実施できたので、今後は生徒の意識を高めることができるよう、継続して取り組んでいく。	3		
		②防災に関する備品を見直し、継続して必要なものを確保する。	今後も継続して取り組んでいく。	3		
	環美	①自然災害の現状、原因、減災等について理解を深める。	今後の訓練や日常の防災教育で継続して行う必要がある。	3		
		②自らの安全を確保するための行動ができるようにする。	学校安全、防災教育の重要性を認識させる。			
		③学校、家庭、地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。	防災教育に終わりも結果もない。実態に即した訓練を継続的に行う必要がある。			
	渉図	①自然災害等の資料・写真集等を積極的にそろえ、震災の日(3.11など)に合わせて展示コーナーを設ける。	どうしても時期が集中するものがあつたが、展示を行うことができた。	2		
	1年	①新入生オリエンテーションで防災講話の実施後、避難経路を確認させ、防災へ意識を高める。	避難訓練の時、小走りで移動する生徒の姿に訓練の意義を感じた。	3		
	2年	①実践的な自己判断の育成を図るため、年2回の防災訓練に真剣に取り組む。	抜き打ちの訓練が実施された。全員避難はできていたが、もっと意識を高めさせていきたい。	2		
	3年	①学年通信、全校集会、避難訓練時を活用する。	避難訓練は概ね良く取り組んでいた。	3		
	機械	①実習時の初動および避難経路の確認、防災用リヤカーの活用、ボルトクリツパの持ち出し	防災用リヤカーを一般利用してもらっていたが、扱い方が雑であったので、機械科で保管するようにした。	2		
	電気	①実習時の避難経路の確認と対応を確認する。	避難経路の確認をした。	3		
	建築	①技術者倫理を育成し、災害に強い建物づくり街づくりを目指す。	3年生「建築施工」においてマンション傾斜問題、2年生「建築構造」において「京アニ放火事件」等を取り上げ、事件のメカニズムを解明し技術者の心構え等も学習した。	3		
②全ての科目に関連づけられる分野において、防災・減災について学習し、日常的な防災教育を行う。		それぞれの項目で、防災学習ができた。特に今年度は、パレットを用いた組立体験で防災家具も実際に組立体験し、防災学習を深めることができた。	3			